

第5号 稲作管理特報

令和6年6月10日
朝 日 町
黒東地域農業技術者協議会

今年の稲の生育は、平年と比べてやや遅く、
茎数は少なめとなっています。

【コシヒカリの生育状況 6月4日現在 10ヶ所】

年次	田植 月日	草丈 cm	茎数		葉齢	葉色
			本/株	本/m ²		
R6	5/12	26.8	7.5	155	5.7	4.0
平年	5/12	28.9	9.4	194	6.4	4.1

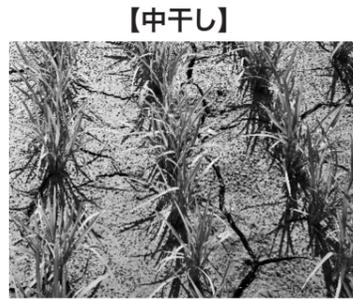
中干しまで浅水管理に努めましょう。
また、米の品質を高めるには「根づくり」が重要
です。適期の中干し開始と中干し後の間断
かん水で「根づくり」を行いましょ。

1 「溝掘り」と「中干し」の実施と水管理

本年は茎数を確保するため、中干しまで2～3cm程度の浅水
管理で分けつの発生を促進しましょう。

溝掘り・中干しは、例年より少し遅く行いましょう。

目安として、田植後1か月頃から止水・落水し、適度な土壌硬
度を確保した上で、溝掘りを行い、そのまま中干しに入りましょう。

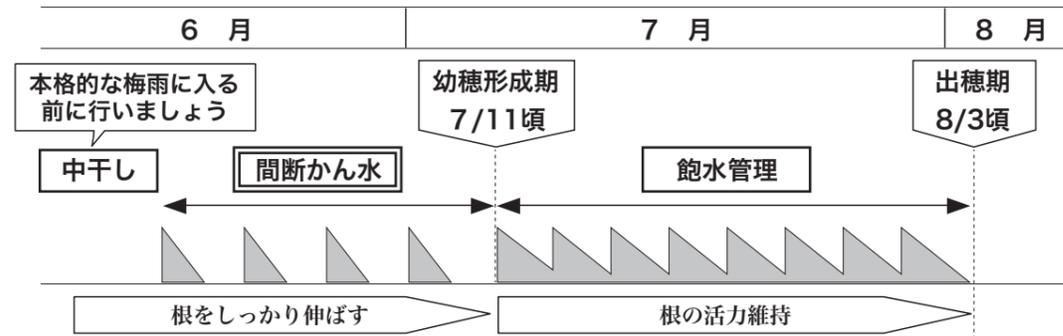


中干しは、本格的な梅雨の前にしっかりと干し上げましょう。中干しの開始が遅れると根の
伸長が不十分となり、米の品質低下につながります。

中干しは小さなひび割れが入り、長ぐつの跡がつく程度まで干しましょう。

中干し後、幼穂形成期までは1日湛水、2～3日落水の「間断かん水」で、根に酸素を与え、
伸長を促しましょう。(※目安は足跡の深さ3cm以内に地固め)

【水管理のイメージ図 (コシヒカリ)】



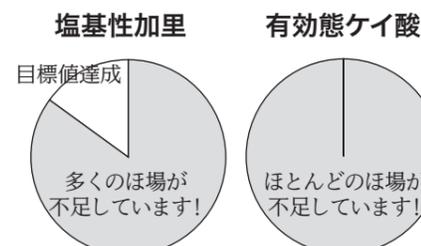
※「飽水管理」(足跡に水が残る程度になったら入水する、稲が水分不足にならない水管理)

2 「エスアイ加里らくだ」の施用

管内の多くのほ場で「ケイ酸」や「カリ」が不足しています。
「ケイ酸」や「カリ」の施用により、稲の受光体勢が良くなり、
登熟が向上することで白未熟粒の発生抑制に繋がります。

「エスアイ加里らくだ」を積極的に施用しましょう。

施用時期: 6月20～25日頃 施用量: 15kg/10a



JAみな穂管内土壌調査結果
[令和4年11月]

「間断かん水」と「飽水管理」で、
夏の高温に負けない根づくりを!



3 中・後期除草剤の散布

中干し後に雑草の発生が多い場合は、草種と葉齢に合わせて、遅れずに除草剤を
散布しましょう。

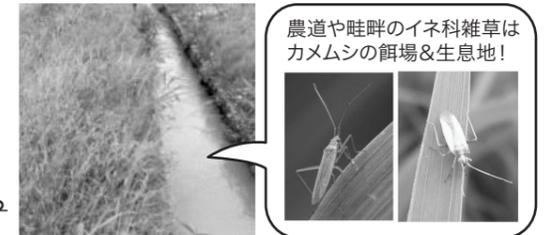
対象雑草	農薬名	散布時期	10a当たり 散布量	使用 回数
ノビエ	トドメMF1キロ粒剤 (湛水して散布)	田植後14日～ノビエ5葉期 (収穫50日前まで)	1kg	3回 以内
ノビエ 広葉雑草	アクシズMX1キロ粒剤 (湛水して散布)	田植後7日～ノビエ4葉期 (収穫45日前まで)	1kg	1回
	レプラスジャンボ (湛水して散布)	田植後14日～ノビエ4葉期 (収穫60日前まで)	バック10個 (400g)	1回
広葉雑草	バサグラン粒剤※ (落水して散布)	田植後15～55日 (収穫60日前まで)	3～4kg	1回

※バサグラン粒剤は、2日以上晴れ間が続く日を選んで散布し、散布後3～4日は入水しないでください。
また、雑草が局所的に多発生している場合は、その部分へのスポット処理ができます。

4 カメムシの発生防止

斑点米カメムシ類の発生は平年より早く、発生
頭数も多い状況です。斑点米カメムシ類の住み
かとなる雑草地や畦畔の草刈りを徹底しましょう。

草刈り後は、雑草の穂が出ないように
管理しましょう。



令和6年度水田畦畔等草刈り動運動期間と一斉草刈り日
運 動 期 間 6月28日(金)～7月7日(日)
一 斉 草 刈 り 日 6月29日(土)～ 30日(日)

～草刈り作業時の留意点～

例年、草刈り作業時における農作業事故が多発しています。

草刈り作業を行う際は、周囲の安全を確認し、怪我や転倒等に注意しましょう。

多発する事故の例	対処方法
刈り刃への接触・巻き込まれによる事故 飛散物による事故 キックバックによる事故	ヘルメット、ゴーグル・フェイスガード、すね あてなどの防護の徹底と飛散物カバーを 外さないようにしましょう。
刈刃に草などが詰まった際の事故	確実にエンジンを切って取り除きましょう。

※熱中症対策として、こまめに休憩を取り、水分補給を行いましょ。

主な情報
提供内容

- ★JAみな穂営農情報メールを配信しています。
- ・水稻・大麦・大豆の生育情報及び今後の管理
- ・気象情報と災害防止の対策

右のQRコードを読み込み、案内に沿って手続きして下さい。

